

二〇二二年度

上宮学園中学校入学考査問題（二次入試適性検査）

国語

（注意）

- （1）この問題用紙は、「開始」の放送があるまで開いてはいけません。
- （2）問題は□一から□二まであります。試験時間は五十分です。
- （3）解答用紙は別に一枚あります。
- （4）解答用紙には、必ず受験番号・名前を記入しなさい。
- （5）「終了」の放送で、筆記用具を置きなさい。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

家庭科を学ぶうちに、わかったことがあります。僕たちの暮らしは、食生活、住環境、被服環境、家族関係をはじめとする人間関係、収入と支出という経済問題などが幾重にもつながりながら影響を与えあって成り立っているということです。どれかひとつでもバランスを欠いたりすると、暮らしはギクシャクします。そうなる暮らしのみならず、気持ちの安定を保つのも大変になります。逆に言うと、暮らしがある程度安定していれば、心もからだも穏やかでいられるし、考え方も前向きになって、がんばろう、がんばり続けようという意欲が沸いてくるということです。

(B) 話を聞いた生徒たちの暮らしぶり、特に食生活に関してはかなりひどいものが多かったのです。寝坊したので朝ご飯は「食べない」、せっかく食べても「スナック菓子とジュース」だったり、塾の前にはジャンクフードで軽く腹ごしらえし、帰宅してから夕食をとるため「一日四食」になったり、ダイエットのために「昼は食べない」「生野菜のサラダしか食べない」「米は食べない」、夜更かし・夜遊び・バイトなどで「きちんとした夕食」を取ることはほとんどない等々。彼らなりの理由があったの夜更かしだったり、食事抜きだったりするわけです。また家庭によっては、親が深夜まで働いていたり、朝早い仕事に就いていたりして、食事を子どもに任せざるを得なくなっている場合もあるようです。「C」、本当にそうでしょうか。

「うちの親はなにもしてくれない」といつまでも誰かのせいにしていて、その結果、自分がいちばん力を発揮したいところできが出せていないのだとしたら……。また生活を楽しめていないのだとしたら、ものすごくもったいないし、つまらないと思いませんか。

僕は家庭科を学んで、この教科なら生徒の悩みや暮らしに寄り添いながら、一緒に考えたり悩んだりできるのではないかと思うようになりました。同時に家庭科では、調理をはじめギotechnicalなことでもたくさん学びます。一人暮らしをすることになったとき、なんとかやっていける程度のもですが、基礎さえ身につけていけばオウ用は可能です(僕のように基礎のないところから始め

るより、よほど簡単です。

どうでしょう、こちらで自分の暮らしを一つひとつ見直してみませんか。毎日の暮らしを当たり前に、気持ちよく過ごすにはどうしたらいいか、一度立ち止まって考えてみるのです。難しく考える必要はありません。家庭科の授業をまじめに楽しめばいいのです。そして気に入った部分があれば暮らしのなかに取り入れ、あとは自分でやりやすいように工夫してゆけばいいのです。

いま、自分でもできることなのに、家族の誰かにやってもらっていることはありませんか。また、本来は自分でやることなのに、人に頼っていることはありませんか。食事、洗濯、掃除、買い物等々、暮らしの一コマ一コマを思い出してみてください。

自分の暮らしを自分で整える力、それを「生活力」と僕は呼んでいます。「生活力」があると、毎日を気持ちよく暮らせます。少々のことがあっても、簡単にへこんだり、折れたりすることもありません。(F)、暮らしを切り盛りしてきた自信が、「なんとか生きていけるさ」という自信をも生み出すからです。それは僕で実証済みです。

(南野 忠晴「正しいパンツのたたみ方——新しい家庭科勉強法」による)

問1 ——線部 a、c はどのような漢字を使って書きますか。 ——線部と同じ漢字を使うものを、次のア、ウの中からそれぞれ

選び、記号で答えなさい。

- a ア シ界をさえぎるもの。 イ 業務にシ障をきたす。 ウ 研究シ料を集める。
- b ア ギ理の兄弟に会う。 イ 相手にギ念をいだく。 ウ 特ギを身につける。
- c ア 客には母がオウ対する。 イ 人のオウ来が活発だ。 ウ 公園の中オウに噴水がある。

問2 ——線部 A「暮らしはギクシヤクします」とありますが、どういうことですか。わかりやすく言い換えた次の文の [] にあてはまる言葉を、本文中から**五字でぬき出して**答えなさい。

日々を []

暮らせないこと。

問3 本文中の（ B ）・（ F ）に入る最も適切な言葉を、次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア なぜなら イ つまり ウ たとえば エ ところが オ あるいは

問4 Cに入る最も適切な言葉を、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア でもなんとかしたい イ もうどうでもいい ウ さあどうしよう エ だからしかたない

問5 〓線部D「ものすごくもったいないし、つまらない」とありますが、どういうことが「もったいないし、つまらない」のですか。本文中の言葉を使って「**食生活の乱れを**」という言葉の後に続く形で**三十字以上四十字以内**で答えなさい。（「食生活の乱れを」は字数にはふくみません。）

問6 〓線部E「『なんとか生きていけるさ』という自信をも生み出す」とありますが、そのような自信を生み出すために、あなたは何かできますか。本文の内容をふまえて、あなたの身の回りのことを例に挙げながら、あなたの考えを**八十字以上百字以内**で書きなさい。ただし、次の「きまり」にしたがって書くこととします。

「きまり」

- ・ 題名は書かず、最初のマスから書き始めなさい。
- ・ 段落は変えず、一段落でまとめなさい。
- ・ 句読点なども一字に数えます。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

カブトムシの研究を始めて六年ほどたつ。カブトムシの研究を通して、自然に対するわたしの価値観は大きく変わった。身近な環境にいる生き物こそがおもしろいということに気付いたのだ。子どものころは図鑑を読みふけり、海外のまだ見ぬ鳥や虫に思いを馳せていた。もちろん、旅先などの非日常の中で出会う生き物の姿が魅力的であることは今も変わっていない。しかし、都会の小さな緑地などでひっそりと生活している生き物のほうに、今はより強い関心がある。

カブトムシを採集するために都会の小さな緑地にトラップをかけることがある。するとうまくいくと一晩で一〇〇匹近いカブトムシを採ることができる。またトラップにはノコギリクワガタのような子どもがあがれる昆虫もたくさん入る。公園に散歩に来ている人の多くは、カブトムシやクワガタムシがまさか生息しているとは思われないような場所である。今年の夏、渋谷区代代木上原の駅前でカブトムシを見かけた。カブトムシの研究をする前であれば、「誰かが逃がしたんだろう」くらいにしか思わなかったかもしれないが、今のわたしは「この近くに生息場所があるのかもしれない」と想像をめぐらせることができる。

わたしたちは、動物園やインターネット、テレビなどのように、いつでもこちらの思い通りに生き物の姿や映像を見られる世界に慣れてしまっている。しかし自然の中の生き物というのは、向こうから人間に姿を見せてくれることはほとんどない。動物写真家、宮崎学氏の言葉を借りるのであれば、「自然は黙して語らない」のだ。こちらから積極的にアプローチをしたり、生き物が残すサインに気付いたりする能力がなければ、たとえずぐ近くで多くの生き物が生活していてもわたしたちはそれを見落とすしてしまう。カブトムシはわたしにそのことを再認識させてくれた。

カブトムシだけではない。たとえばわたしの職場のある目黒区の東京大学にも、きちんと注意を向けていると面白い生き物がたくさん生活していることに気付くようになった。初夏にアカメガシワの花を六メートルの捕虫網で掬うと、ハチにそっくりの姿をしたヒメトラハナムグリを採ることができる。大学の構内に生息する昆虫で最もわたしのお気に入りの種のひとつである。

盛夏になると、エノキの梢に飛び交うタマムシを探すことが日課となる。ただしこちらは六メートルの捕虫網をもってしても

手も足も出ない。構内に数多く生えるヤマグワの老木の幹をよく見てみると、キイロスズメバチそっくりのトラカミキリが這い回っている。ヤマグワの幹や枝にはトラカミキリの成虫が脱出したと思われる孔があちこちに空いている。少し大きくて楕円形の孔はタマムシのものである。

秋になると、三階のわたしの居室から見える木々にはエゾビタキ、キビタキやメボソムシクイなどの小鳥がやってくる。そして冬になるとシメやジョウビタキのような冬鳥たちに入れ替わる。イイギリの赤い実には、ヒヨドリやツグミが入れ替わり立ち替わりやってくる。シジュウカラたちが突然甲高い叫び声を上げたときは、たいてい上空をオオタカやツミなどの猛禽類が舞っている。ここに挙げた生き物たちも、興味を持たなければ、そして、きちんとした探し方を知らなければ、たとえ何年大学へ通ったとしても一度も目にする機会はないかもしれない。そしてわたし自身もまだ気付いていない世界が身近な環境にも広がっているはずだ。

身近な生き物を見つけないときには、対象となる種類の習性や探し方を知っているということはもちろん大事である。しかし、それ以前に重要なのは思いこみを捨てることである。都会だからカブトムシはいないはずだ、とか、タヌキは田舎にしかないだろう、という思いこみがあると、探す努力すらしなのまま終わってしまう。研究というものも、身近な自然の中から生き物を探し出すプロセスと似ていると思う。ニュートンが、落ちるリングを見て、万有引力の法則を見つけたといわれているように、過去の偉大な発見の多くは、思いこみを捨てて身近な自然現象を見ることから着想を得たものである。みなさんも一度、常識を捨てて自由な発想で自然を見つめてほしい。きっとふだん何気なく見ている世界の中にも驚くような発見があるはずだ。

(小島 渉「わたしのカブトムシ研究」による)

注 万有引力……物体間につねに働く引力のことで、現在では重力という名称が用いられている場合が多い。1665年ニュートンによって発見される。

問1 〓線部「今のわたし」とありますが、それをくわしく説明した次の文の ・ に入る言葉を答えなさい。ただし、 は十二字、 は十一字で本文中からぬき出してそれぞれ答えなさい。(句読点なども一字に数えます。)

以前は に強く惹かされたが、今は に強く惹かれているわたし。

問2 カブトムシやクワガタムシのように、なじみ深い生き物を発見する際に重要なことは何ですか。「**さ**だけではなく、**く**ことが**重要だ**。」という形で、本文の内容をふまえて**八十字以内**で答えなさい。(「**さ**だけではなく、**く**ことが**重要だ**。」も字数にふくみます。)ただし、次の「**きまり**」にしたがって書くこととします。

「**きまり**」

- ・ 題名は書かず、最初のマスから書き始めなさい。
- ・ 段落は変えず、一段落でまとめなさい。
- ・ 句読点なども一字に数えます。